歐米鐵鋼價格論

（併せて生產費の研究）

小島精一

目次

緒言
第一章　獨逸鐵鋼市況。
第一節　鐵鋼市價の趨勢
第二節　生產費の趨勢　併せて主要製鐵會社の成績に就て。
第二章　英國鐵鋼市況。
第一節　鐵鋼市價の趨勢
第二節　生產費の趨勢　併せて製鐵會社の戰時中の成績概觀。
第三章　米國鐵鋼市況。
第一節　鐵鋼市況の趨勢
第二節　生產費の趨勢　併せてユー、エス會社の收益金勘定對比。
第四章　結論。

序

本篇は大戰前後の鐵鋼價格の叙述にして世界市場の中心たる英、獨、米三國の市況を概說し進んで生產費の解剖を試みたり。殊に鐵鑛、燃料及勞銀の趨勢を探究し之を綜合して現下の市價と對比し以て市價安定點を指摘するに務めたり。

最後に各國主要會社の成績を附記して市況の理解に便ならしめたり。尚ほ第三章米國市況を稍詳叙したるは全く本邦製鐵業との關係最も密接なるによるのみ。（大正十年三月二十一日識）

緒言

大戰前歐洲市場に雄飛したるは獨逸の投賣物なり。之れ生產費以外其過剩生產を阻止せんかため各方面より有力なる援助ありしによる。稍古き統計なれ共一九〇四年英國關稅委員の發表したる鐵鋼業に關する報告に據れは當時英、獨、米三國の銑鐵噸當生產費次の如し。

	英國		獨逸		米國	
	クリーブランド	ヘマタイト	ローレン	ウエストフアリア	ビッツバーグ	アラバマ
	志片	志片	志片	志片	志片	志片
一、鐵鑛	一六〇	二五六	八四	二二〇	三三〇	一六〇
二、骸炭	一六〇	二一〇	二二六	一三〇	一一〇	一五六
三、石炭	一六	一四	―	―	一六	一六
四、高爐職工	三九	四〇	三〇	三〇	三〇	三六
五、倉庫割	〇八	〇七				
六、煉瓦粘土蒸汽炭	〇八	〇八	三〇	三〇	二〇	二六
七、修繕償却費等	二三	二四				
計	四〇一〇	五五五	四六一〇	五一〇	五〇六	三九〇

(Report of the Tariff Commission "The Iron & Steel Trades" 1904)

即ち當時最も低廉なりしはマラバマにしてクリーブランド之に次きローレン第三位なりき、然るにヘマタイト銑に於ては米國最も廉價にして英國之に次きたり。又當時獨逸內務省の調査に據れはビッツバーグに於てはベセマー銑原價はユー、エス會社にても一二乃至一三弗を下らす他會社にては一五弗を出つへく、アラバマ銑にても一〇弗乃至一一弗ならんと云へり。斯くて當時主要製鐵國の原價は大體併行し其差額は未た著しからさりき。爾後大戰に到る約一〇年間は技術の進步、經營組織

の統一により物價の上昇したるにも拘はらす製鐵原價は殆と不動にして米國の如きは反て幾分の改善を見たり。

各國原價と市價との間隙急激に發展したるは大戰開始後なり。殊に戰後の國際市價は外は爲替相場の變動に伴ひ內は勞銀昂騰及生產減退に伴ふ變態の爲め尙ほ混沌たるを免れす。

余は本編に於て各國生產費の傾向を訊ね鐵價趨勢の狀況を一瞥して其常態回復後の鐵鋼市價の安定點に論及せんと欲す。

第一章　獨逸製鐵市況

第一節　鐵鋼市價の趨勢

(一)戰前及戰時中

大戰前及戰時中獨逸の鐵價を左右したるは製鋼組合銑鐵組合及炭業組合なり。生產者、消費者及販賣業者間に既に有力なる統合機關發達したるを以て炭鐵市價は稍恒定する處ありき。即ち戰前及戰時中の市價次表の如し。

年月日	鋼塊 磅志片	鋼塊 磅志	鋼片 磅志片	鋼片 磅志	板材 磅志片	板材 磅志	整形鐵 磅志片	整形鐵 磅志
一九一四　四　六	四　二　六(八二・五馬克)	四　一五　〇(九五・〇馬克)	四　一七　六	五　一〇・〇	五　一〇・〇	五　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇
同　七　九	四　二　六	四　一五　〇	四　一七　六	五　一〇・〇	五　一〇・〇	五　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇
同　一〇　一二	四　一〇　〇	五　二　六	五　五　〇	五　一〇・〇	五　一〇・〇	五　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇
一九一五　一　三	四　一〇　〇	五　二　六	五　五　〇	五　一〇・〇	五　一〇・〇	五　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇
同　四　六	四　一二　六	五　一〇　〇	五　一二　六	六　〇・〇	六　〇・〇	六　〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇
同　七　九	五　二　六	五　一七　六	六　一〇　〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇
同　一〇　一二	五　二　六	五　一五　〇	五　一七　六	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇
一九一六　一　三	五　二　六	五　一五　〇	五　一七　六	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇	六　一〇・〇

同	四	六	五七六	六二六	六七六	七〇〇		
同	七	九	五七六	七二六	七七六	八〇〇		
一九一九	一		一四五〇(二八五馬克)	一五〇〇(三〇〇馬克)	一五五〇	一六〇〇		

(二)戰後の內地市價

上表によれは一九一九年初は開戰前に比し既に三倍半に達したれ共尙ほ列國の大勢に比すれは特に顯著なる變態に非さりき。然るに平和條約成るや獨逸は食料品其他各種原料を頻りに外國より輸入し斯くて獨逸貨幣の對外價値暴落したるを以て外國鑛石等輸入原料昂騰を告け鐵價も亦驚くへき奔騰を見たり。於是乎外國鑛石を使用する製造業者は此の窮狀を脫出せんとし其製品の內地販賣にも代價の大部分を外國爲替にて受領し以て爲替變動の危險を消費者に轉嫁せんとしたり。然れ共一九一九年の中頃より市況は愈々奔騰を續け一九二〇年に入りて一層高値を示し同五月にはヘマタイト銑二、三三八馬克に達せり。從て戰前內地市價は多く輸出價格より高値なりしも今や反て反對の現象を呈せり。大戰後の內地價格次の如し。

主要鐵鋼材內地市價

年月日	ヘマタイト銑	鋼塊	鋼片	鑄鐵(建築材)	線材	中板
戰前	七九・五馬克	八三・五馬克	九七・五	一一二馬克	一一七・五馬克	一一〇馬克
一九一九 一 一	三一四・五	二六五	三〇五	三二〇	三五〇	四二〇
同 一二 一	一、七一八・五	一、四三〇	一、五〇五	一、七一五	二、〇〇〇	二、五四五
一九二〇 二 一	二、二一〇・〇	二、一一九〇	二、二六五	二、五六五	三、一二〇	三、八六五
同 四 一	二、二八八・五	二、四〇七	二、四八二	二、七七二	三、三〇二	四、〇二二
同 五 一	二、三三八・〇	二、六五〇	三、二〇〇	三、六二〇	四、一五〇	五、五三五
同 六 一	二、一五〇・五	二、四三五	二、七九〇	三、三二〇	三、五八五	四、七七五
同 八 一一	一、九一〇・〇	二、一四〇	二、四一〇	二、七四〇	三、一六〇	四、〇六〇
一〇 一一						

(註)六月一日分にはシーメンス爐產のものに噸當一〇〇馬克を加ふ。

本相場は一九二〇年五月以降製鋼組合の廢滅と共に新統合組織(Eisen wirtschaftbund)か決定し經濟大臣の許可を得て發表せるものなり。新統合組織に就きては後述すへきか如く全國の各種鐵鋼品を統一的に規律する民主的組織なり。

戰後の輸出價格も亦新統合組織の規定する處なり。獨逸主務省は製鐵業者の爲替關係を利用して濫りに對外輸出を試み、之か爲に緊切なる內地需要を無視するの傾向あらんことを恐れ既に一九一九年十二月に輸出稅及輸出許可の制度を採用せんことを定め、超えて一九二〇年五月十日より之を實行したり。本稅率は初め從價三%乃至一〇%なりしか其後次第に輕減して一%乃至四%となれり。然れ共當業者は輸出許可の煩はしきを訴へ敏速なるへき商機を逸するの弊を說き且つ海外市場最近の崩落氣配に伴ふ輸出稅の徹廢を要望しつゝありたり。

(三)爲替相場及輸出價格

次に最近の爲替相場及輸出價格を表示すへし。

最近獨逸爲替相場表

年月日	倫敦 對英(英貨一磅に付)一馬克	紐育 對米(獨貨一馬克に付仙)	對瑞典(獨貨百馬克に付法)
一九一九 一一 二一	一七四—一七七	二・三五	一二・三〇
一九二〇 一 二三	二五七—二五八	一・五〇	八・八〇
同 二 二〇	三二五—三二六	一・〇四	六・二〇
同 三 一九	二八八—二九二	一・三〇	七・三〇
同 四 二三	二三七—二四〇	一・六二	九・一〇
同 五 二一	一六〇—一六四	二・四六	一三・五〇
同 六 一八	一五三—一五六	二・六〇	一四・〇〇
同 七 一六	一四九—一五〇	二・五七五	一四・五〇
同 八 二〇	一七八—一八一	一・九七	一二・二五

同	九 二四	二二一——二二三	一・六四	一〇・四〇	
同	一〇 二二	二四三——二四三、五	一・四二	九・〇五	
同	一一 一九	二五三——二五六	一・三六	九・六〇	

(註) 平價 一磅＝二〇・四三馬克　一馬克＝二三・三八仙　一〇〇馬克＝一二三・四五法 (Economist に據る)

棒鐵一噸輸出價格

年	月以降	對瑞典(法)	對和蘭(ギルデン)	對瑞典(クラウン)	對諾威(クラウン)	對丁抹(クラウン)
一九二〇	一月以降	五〇〇	四七五	四一五	四三〇	四七五
同	三 同	五五〇以上	二四〇以上	四五〇以上	四八〇以上	五五〇以上
同	五——七月迄	六五〇	三〇〇	五〇〇	六二四	六五〇
同	八——一〇月迄	五五〇	二七五	四五〇	五九〇	六〇〇

(註) 本相場はトーマス爐製品ラインランド、オーバーハウゼン渡とす。尙ほ爲替相場の關係上ポーランド、墺土利等には馬克建とす。

既に述へたるか如く鐵鋼價格の管理は極めて統一的に行はるれ共尙ほ實際取引は公定價格と時によりて差異を生することあり。殊に經濟省の與ふる許可は稍もすれは官僚的統治に伴ふ伸縮性を欠き當業者の怨嗟を聞くことあり。輸出制限(最近鐵鋼業組合は輸出量を全生產の二割內外とせり)による內外需給の調節も極めて困難なる事項にして從て論難なきに非す。

第二節 生產費の趨勢

(一)一九〇四、五年の頃獨乙銑鐵の生產費か略英、米と同一なることは上記の如し。本節に於ては大戰前後の事情を考究して將來の推測に及はんとす。先つ原料價格の趨勢を檢するに

(1) 炭價。(單位馬克)

	戰前	一九一八年一月	一九一九年一月	一九一九年十二月	一九二〇年四月	五月
瀝青炭	一五	一五	四五	九四—九七	二〇三	二三三
高爐用骸炭	一七	一七	六〇	一二七	二四四	二八〇

（註）獨逸製鐵業か燃料不足にて殊に困難せるは著しきことなり政府は戰後の窮狀を救はんか爲め曩に全國炭坑シンヂケートを組織し帝國石炭評議會を設けて最高石炭政策を統一し以て能率の向上と炭價の調節とを企圖したり。然るに坑夫の能率は遞落し出炭量減退し加ふるに賃銀の上昇するあり社會化問題の具體化するあり財界の前途尙ほ混沌たるを見る。

(2) 鐵鑛。

（イ）ジーガーランド鐵鑛シンヂケートの價格

	粗鑛（噸當、馬克）	焙燒鑛		粗鑛	焙燒鑛
一九一三年十一月	一二・九五	一八・七五	一九二〇年一月末	一九九・一	二九八・四
一九一四　同	一二・三五	一八・七五	四月	二一二・六	三一八・五
一九一五　同	一四・七三	二二・二五	五月	二六二・六	三九三・五
一九一六　同	一六・八〇	二五・五〇	九月	二七七・九	四一六・五
一九一七　同	二三・五〇	三六・六五	一〇月	二七四・五	四一・一五
一九一八　同	二八・六〇	四一・三〇			
一九一九年前半期	四四・八五	六五・二〇			

（註）ジーガーランド鑛は良質なれ共不廉なり。ミネット鑛は低廉なりしか今望むへからす。

（コ）外國鑛

主要鑛石の戰前及戰後の市價次の如し。

	瑞典鑛(1)	西班牙鑛(2)	露國クリヴオイログ鑛(3)	ミネット鑛（採掘費）(4)
戰前	一九—二〇馬克	二三・五—一七志	二五馬克	四—五馬克
戰後	二八〇馬克	四五——五二志	?	八——九法

（註）(1)ウエストフアリア渡戰前長期契約ありたるか其處分は最近の問題なりき。（一九一九年一〇月末）
(2)英國港渡市價、近時ビルバオ鑛は英國の競爭の爲め市價昂騰を告ぐ。（一九一九年五月市價）　(3) Duisburg 渡
(4)戰後は大體ジーガーランド鑛と競爭することならん。（一九一九年一〇月）ローレン爐前渡價格なり。

以上の如く原料價格一齊に昂騰し、殊に外國鑛石は爲替相場の變態の爲め著しき狂奔をなしたるを以て現下の生產費は之を知るへからす。然れ共ミネット鑛を失へる同國の原價か戰前の如き低廉

なるを得さるは固より察するを得へく、然もウエストファリアの趨勢は今後益〻外國鑛によりて左右せらるゝを免れさるへし。

(二)次にクルップ製鐵場(Rheinhausen)の生産費を入手したるを以て掲記すへし。

(イ) ラインハウゼン工場銑鐵噸當生産費(馬克)

	一九一四年	一九一八年一〇月	一九一九年二月
骸炭	一六	四四	一〇六
鐵鑛	三二—三三	七〇	一三五
賃銀	一・五—二・〇	四	九
間接費	三・五—四・〇	六—八	一五
計	五三—五五	一二六	二〇五

(註) 尙戰前の生産費につきては Krahmann 博士の推算あり。併せ掲くへし。(滿鐵調査局、世界製鐵業第二編)

ルール地方銑鐵生産費(馬克)

	(甲)炭坑を所有する工場	(乙)石炭を購入する工場
鐵鑛	二・二二二瓩	三一・一〇
石灰石	三一・一〇	一・〇〇
骸炭	一・〇〇〇瓩	一三・〇〇	一九・五〇
製錬費	一・〇〇	六・〇〇
減價償却費	二・〇〇	二・〇〇
計	五三・一〇	五九・六〇

(ロ) 鋼塊製煉費(Adolf Emill 工場)(馬克)

	一九一三年	一九一八年
賃銀	一・一九	二・六四
原料(助成)	・二一	一・六四
モールド	・六六	一・八九
修繕費	・一二	・四五

電力代	・三七	一・二二
間接費	・七七	一・五〇
耐火材（酸性）	・二一	・六六
同（鹽基性）	・四六	一・一五
研究室費	・一〇	・三四
石灰石	二・一四	五・九〇
瓦斯及水道	・〇七	一・五〇
製練費計	六・三〇	一八・八九

（註）尙ほ鋼塊一噸に要する主成材料

	一九一三年	一九一八年
ルクセンブルグ銑	一一〇七瓩	一〇七三瓩
鏡鐵	二	七
フエロマンカン	五	七
鋼屑	一〇	五七
（同收屑）	（六）	（四）
差引計	一、一一八基	一、一四〇基

之より鋼塊一噸の原價を推算すれは大體戰前は六八馬克、一九一八年には一六三馬克なり。

（八）壓延費（鋼塊より壓延材に）（馬克）

	一九一三年	一九一八年
壓延後の仕上	三・〇三	八・三一
ローラー變更費（イ）置かへ	・二九	・四二
（ロ）新ロール据附代	・〇四	・〇九
消耗破損等によるロール消費		
（イ）置かへ	・三一	一・七七
（ロ）新ロール	・〇一	—
賃銀及給料	一・八七	五・〇一

材料(油等)	・六七	四・三九
手明き機械	・八一	・六八
修繕費	・三七	・九三
電氣	・九〇	二・八四
管理費	一・〇八	二・二五
間接費	・八三	一・五七
工場變更及擴張費	・二二	—
瓦斯及水道	・二三	・三六
計	一〇・六六	二八・六二

(註) 主成材料使用量は

鋼塊	一九一三年	一九一八年
屑回收高	一、二〇八瓩	一、二四八瓩
計	一六五	一八六
外に燃料	一、〇四三	一、〇六二
	一七瓩	一八瓩

(三)獨乙製鐵業の將來如何　既に其の輸出能力を喪失したるは明なり、而して其の生產費も亦外國鑛石に依賴する關係上從來の如き安定と低廉とを保つを得さるへし。從來同國二大製鐵地方の一たるウエストファリアは石炭の低廉を以て優り、ローレン地方は鐵鑛の低廉を長所とせり、而して其の總生產費より見れは後者は前者より優れり。今やローレン奪はれ石炭の供給又制限せらる、前途甚た多難なりと云ふへし。

只た茲に注目すへきは爲替相場の變調にして同國製鐵業者は和蘭、白耳義、英國等の市場に對し頻りに輸出を試みつゝあるものゝ如し。輸出に關する統計は全然發表せられすと雖も是等の諸國か所謂"exchange protection"を絕叫せるより察すれは既に一九二〇年度に入りて著しく海外市場を回復

るを想見すべし。然れ共是れ固より一時的の變態のみ。最近の情報によれば勞銀及炭價依然として低落せず、當業者は既に難色ありと云へり。

(四)戰後の製鐵會社成績

一九一九年—二〇年度の營業成績は各社概して著しき好成績を示したり。即ち次表の如し。

	社債計(百萬馬克)一九一二年度株式及	償却高(百萬馬克)一九一六年	償却高(百萬馬克)一九一九年	償却高(百萬馬克)一九二〇年	純益(百萬馬克)一九一六年	純益(百萬馬克)一九一九年	純益(百萬馬克)一九二〇年	配當(%)一九一六年	配當(%)一九一九年	配當(%)一九二〇年
一、Phoenix	一三八、二三	二一、六	一一、七	二一、三	三七、七	二、六	四七、七	二〇	三	二〇
二、Bochum Verein	四〇、〇〇	五、三	七、四	九、一	一五、六	(一)〇、二	一七、五	二二五	五	一五
三、Cutehoffnungshütte	四九、七一	一〇、二	八、二	?	一五、五	一、三	?	二〇	六	二〇
四、Kattowitz	三五、二八	二、五	二、五	二、五	七、三	(一)三、四	一三、一	一二	〇	二〇
五、Laura St. Co.	五四、二〇	七、二	四、三	一〇、〇	八、三	(一)一〇、八	五〇、〇	一二	〇	二〇
六、Georgs marien St. Co.	三三、九四	四、五	四、九	五、八	一、九	(一)〇、四	二、一	一〇	〇	八
七、V3 Zypen.	一六、二二	四、九	三、五	五、四	六、九	二、九	一五、二	二五	一〇	三〇
八、Haspet St. Co.	一四、三五	四、五	三、四	五、二	四、〇	一、一	五、八	一六	一〇	二〇

(註) Iron Monger Oct. 23. 1920. (一)ハ鉄損なり。

參考の爲め戰前の成績を掲げん。 (I & C. Tr. Rev. 1915)

各會社に於ける資本株式社債、積立金及生產額表

會社名	株式資本	社債	積立金	石炭產額 1913—14	石炭產額 1912—13	銑鐵產額 1913—14	銑鐵產額 1912—13	鋼塊產額 1913—14	鋼塊產額 1912—13
	磅	磅	磅	噸	噸	噸	噸	噸	噸
Phœnix	5,300,000	1,515,000	1,065,000	5,167,905	5,207,997	1,237,779	1,238,217	1,501,819	1,482,723
Gutehoffnungshütte	1,500,000	1,570,000	4,655,000	3,843,711	3,723,769	814,074	787,028	818,497	800,615
Bochumer Verein	1,800,000	490,000	860,000	1,794,420	1,661,505	275,000	280,000	396,393	373,822
Hoesch	1,400,000	430,000	1,200,000	1,432,052	1,490,345	528,118	463,016	600,046	612,384
Rheinische Stahlwerke	2,300,000	300,000	725,000	1,110,001	1,171,770	647,095	595,143	697,153	689,461
Hasper Eisen und Stahlwerke ..	650,000	200,000	190,000	—	—	301,570	291,890	263,780	223,670
Van der Zypen und Wissen ..	850,009	140,000	230,000	—	—	113,133	129,441	130,326	131,272
Georgs-Marienhütte	925,000	865,000	340,036	583,505	514,016	173,780	203,620	213,476	223,198
Konigs und Laurahütte	1,800,000	970,000	510,000	3,711,664	3,388,078	251,209	254,584	440,000	446,044

Rombacher Hütte	2,500,000	950,000	1,270,000	—	—	749,489	769,276	585,400	589,700
Deutsch Luxemburg	6,500,000	4,255,000	1,705,006	5,531,157	5,091,261	1,008,438	1,011,687	1,051,587	993,981
Aumetz-Friede	2,990,000	1,715,000	885,000	1,983,259	1,757,412	680,764	675,627	594,254	555,604
Maximilianshütte	760,000	310,000	745,000	—	—	251,390	243,630	218,608	224,909
Burbach-Eich-Dudelingen	895,000	3,300,000	1,445,000	—	—	1,096,184	958,257	1,002,544	847,472
Gelsenkirchen	9,000,000	2,395,000	2,545,007	10,353,050	9,526,310	1,581,070	1,487,643	996,333	795,497
Oberscnles Friedenshütte	2,400,000	980,000	215,000	718,543	667,774	229,250	250,050	395,044	429,875
Ilseder Hütte	750,000	305,000	110,000	—	—	304,712	305,471	343,630	332,499

各會社に於ける純益減價償却並に配當金

會社名	減價償却前の利益金		償却基金		配當歩合	
	1913—14	1912—13	1912—13	1912—13	1913—14	1912—13
	磅	磅	磅	磅	%	%
Phœnix	1,813,000	2,104,000	651,000	830,000	10	18
Gutehoffnungshütte	725,000	926,000	376,000	450,000	10	20
Bochumer Verein	490,000	445,000	147,000	124,000	10	14
Hoesch	452,000	655,000	212,000	225,000	15	24
Rheinische Stahlwetke	500,000	579,000	210,000	251,000	10	10
Aasper Eisen und Stahlwerke	134,000	183,000	68,000	68,000	5	12
Van der Zypen und Wissen	179,060	219,000	69,000	85,000	8	12
Georgs-Marienhütte	202,000	232,000	124,000	120,000	6	7
Konigs und Laurahütte	495,000	562,000	325,000	327,000	4	8
Rombacher Hiitte	556.000	616,000	248,000	270,000	5	10
Deutsch-Luxemburg	1,219,000	1,444.000	800,000	805,000	—	10
Aumetz-Friede	590,000	706,000	250,000	240,000	6	12
Maximilianshütte	381,000	394,000	203,000	170,000	10½	0⅓
Burbach-Eich-Dudelingen	431,000	782,000	227,000	383,000	12	30
Gelsenkirchen	2,372,000	2,066,000	1,165,000	1,085,000	11	10
Oberschles. Friedenshütte	300,000	376.000	180,000	200,000	4	6
Ilseder Hütte	330,000	335,000	114,000	114,000	25	26

第二章　英國鐵鋼市況

第一節　鐵鋼市價の趨勢

大戰前後の鐵價次の如し。

年月	東岸マッタイト銑 磅	志	片	クリーブランド銑 磅	志	片	軌 磅	志	條 片	船用板 磅	志	片	アングル 磅	志	片
一九一〇	—	—	—	—	五〇	三六	五	八	一〇	五	一七	五	七	一	三
一九一一	—	—	—	—	四七	八二	五	一三	〇	六	二	九	六	一三	〇
一九一二	三	一二	一一	—	三八	五〇	五	一二	五	六	五	六	七	五	一二

一九一三	六	三	一六	〇	二	一六	〇	六	一五	〇	八	七	六	七	一五	〇
同	一二	三	一	六	二	一〇	六	六	一一	六	六	七	六	六	一〇	〇
一九一四	六	二	一九	六	二	一一	六	六	五	〇	六	〇	〇	六	一〇	〇
同	一二	三	一二	六	二	一四	〇	六	七	六	五	五	〇	八 七	〇 一〇	〇 〇
一九一五	六	五	〇	〇	三	七	〇	八	五	〇	九	〇	〇	九 九	一〇 〇	〇 〇
同	一二	六	一〇	〇	三	一七	〇	一一	〇	〇	一二	一七	六	一二	〇	六
受理		六	二	六	四	一五	〇	一〇	一七	六	一一	一〇	六	一一	二	六
一九一九	五	九	一〇	〇	八	〇	〇	一五	〇	〇	一七	一〇	〇	一七	五	〇
同	九	一〇	〇	〇	八	〇	〇	一六	一〇	〇	一八	一五	〇	一八	五	〇
同	一二	一〇	〇	〇	八	〇	〇	一七	一〇	〇	二一	一〇	〇	一八	五	〇
一九二〇	一	一一	〇	〇	八	一五	〇	一八	一五	〇	二一	一〇	〇	一九	一〇	〇
同	二	一一	〇	〇	八	一五	〇	一九	一五	〇	二三	一〇	〇	二〇	一〇	〇
第一期			二六〇			一八〇	一〇	二一	五							
第二期			二六〇			二一一	一〇、五	二三	〇							
第三期			二六〇			二二〇	〇、四	二五								
第四期			二六〇			二二五	〇、四	二六								

(註) 一九一〇—一二年 (Iron & Coal Tr. Rev.)
一九一三年三月—一九二〇年二月 (Birkett. J of Royal Statistical Society, may. 1920)
一九二〇年 (J. & C. Tr. Rev. Jan. 2. 1921.)

右によれは一九一五年初迄價格は下落し爾後奔騰せり。政府か軍需品の必要上其管理に着手したるは一九一五年六月の砲彈用鋼鐵最高價格に關する協議にして更に一般鐵鋼管理の必要を認め一九一六年の管理價格を見るに到れり。其後政府は砲彈用鋼及銑の價格引下けに腐心したれ共既に此時商業用鐵鋼材には殆と利益の餘地なき事認められたると及ひ石炭坑夫の賞與制度採用せられ延て數回の賃銀値上を見たるを以て一九一七年十一月三十日遂に左の協定の成立するに到れり。

(1)砲彈用鋼鐵の基本價格は之を變更せす一噸一五磅とし各製造者は一噸につき二五志宛政府へ拂戻すへきこと。

(2)商業用鋼鐵基本價格は之を變更せす、但し軍需省は船舶、橋梁、タンク及チエッカー、プレートに對し一噸二〇志、アングル、ヂョイスト及レールに對し一五志宛補助金を支拂ふこと。

而して補助金制度を採用したる理由は鐵鋼價格の變更は軍需品の契約を錯亂すへく、又賃銀の多くは銑鐵及鋼材の賣價を標準とするSliding scaleを採用せるを以て價格の上騰は延て生產者を苦しむへしと云ふにありたり。爾後勞銀は頻りに上昇し一九二八年六月には炭坑夫の賃銀殊に增加し延て鐵鑛夫、骸炭爐夫に波及し補助金の增加を必要ならしめたり。

政府は其後鐵鑛、コークス、銑鐵其他一般製鐵の原料の管理を行ひ其の最高價格を決定せり。

一九一八年十一月休戰條約締結せらる、政府は一方に於て平時經濟の回復迅速ならんことを欲したれ共俄に補助金を撤廢するは市價の暴騰を來し財界の混亂せんことを恐れ一九一九年一月末日を以て鋼鐵業者支給の分を廢し四月末日に到りて鑛石、骸炭及銑鐵の分を廢し當時の最高價格は一月末日迄有效とし、同日更に新價格令を發表し四月末日を以て管理を全廢せり。

戰時中政府は輸出制限の方針を採り殊に管理令採用後は鐵鋼品の大部分を禁輸品目中に屬せしめたり、而も補助金を受けたる貨物の輸出を解放するは不合理なるを以て輸出價格表を發表し之を大體國內賣價に政府の支拂へる補助金見積高を加算したるものに等しからしめたり。而して內地價格と輸出價格との差は銑鐵一噸につき平均二磅十志にして鋼鐵の場合は大約五磅なりき、これ大體補助金額の平均を表はすものにして生產費の低下せさる限り管理令撤廢後の市價昂騰率を示すへき理なりしなり。

然るに平和克復後は勞働爭議頻りに勃發し其都度一方に於ては賃銀の上昇を來しつゝ能率は愈

低下したるを以て內地生產者は啻に需要に應すへき供給をなすを得さるに止まらす、生產費昂騰し爲に市價は一九二〇年十月末に至る迄頻りに奔騰を續けたり。

殊に憂ふへきは目下同國に鬱勃せる燃料勞働者の紛擾にして此の問題の滿足なる解決を得さる限り同國製鐵業は尙ほ久しく不利の地步を甘受せさるへからさるへし。

（註）(1)運搬の缺乏も亦各國と等しく製鐵業を苦しめたり。

(2)一九二〇年十一月より市價は歐洲大陸殊に獨、白、兩國の競爭の爲め遞減の傾向を示し各方面の工場閉鎖に伴ふ需要減退を來せり。

次に其生產費を考察すへし。

（後述參照）

第二節　生產費の趨勢

(一)一九〇四年頃の生產費につきては同國關稅委員報告書より之を拔載したり。即ちクリーブランド地方に於て銑鐵四〇志一〇片、西部沿岸赤鐵鑛銑五五志五片なり。同報告は更に曰く、

(1)クリーブランド鑛(品位平均三〇%)は銑鐵一噸當り山元代、價一二志を超へす、カムバーランド(品位五〇%)は製鐵所渡代價は距離によりて一六志乃至一八志を下ることなし。

(2)次に使用鑛石の約半を供給するは外國產鑛石なるか其大部分は西班牙鑛なり。(五〇—六一%)一九〇三年頃のミッドルスブロー渡價格は一五志前後なり。

(3)燃料はスコットランド及英蘭の一二地方に於て石炭を用ふるを除き主として骸炭なるかカムバーランド及クリーブランド共にヂュラム骸炭を原料とす、其爐前市價は一二志乃至一三志にして、クリーブランド迄二志乃至二志六片、カムバーランド迄七志六片の運賃を要す。即ち

カムバーランド高爐前コークス一噸約一五志

同　二〇志

(4)ベセマー鋼製造費次の如し。

	鋼塊一噸		レール一噸	
	志	片	志	片
一、原料費	六五	八	八四	一〇
二、賃銀	二	一〇	六	一〇
三、倉庫割其他	六	〇	二	一〇
四、其他雜費	一	六	一	六
計	七六	〇	九六	〇

以上は大體同國戰前の鐵價と考ふるを得へし。

(註)大戰前約十年の生産費は增加なきこと上述せり。

(二)戰時中生産費は著しく昂騰せり。

(イ)鐵鑛石

(1)クリーブランド鐵鑛の噸當山元市價次表の如し。(I. & C. Tr. Rev. Dce. 1920)

年	志	片	年	志	片
一九〇七	四	八	一九一七	九	〇
一九一三	五	〇	一九一八	一〇	六
一九一五	六	六	一九一九	一三	六
一九一六	七	〇	一九二〇	一五	〇

(2)カンバーランド及ランカシア赤鐵鑛採掘費次の如し。

	一九一四年		一九一八年三月	
	志	片	志	片
賃銀	五	一〇、六四	一五	二、七四
材料費	一	一一、七五	四	七、七一
鑛區代			六	七、〇二

管理費	四	一	一、七七
諸費	一一、二六	一	二、四四
計	一二	九、六五	二八	九、六八

（註）賃銀上昇の趨勢は最も驚嘆すべきものあり、一九一九年カムバーランドに於ては更に下の如き新賃銀協約を締結しなり。

本協約の要旨は銑鐵市價に基く採鑛夫の賃銀新滑準法（從價昇降制度）を決定するに存し、一九一九年九月下旬に於ける銑鐵想定市價二〇四志六片に對し鑛夫一交代賃銀を一八志九片とし爾來二ヶ月間に銑鐵（Mixed No.）平均純販賣價格（過去二ヶ月間）の昂低一志につき一交代一片を上下せしむるものとす。而して一方に最低賃銀額を定め之を一交代一四志とし銑鐵市價一八〇志を下らさる限り其標準を變更せす、若し市價一八〇志以下に下らは低下額一志に付一交代一片を減して最低額とす、更に市價一〇〇志に近つかは雇主、勞働者側双方の聯合會議を開きて最低額を改訂すへし。

因に英國の炭鑛勞働者の賃銀は主として一種の Sliding Scale によりて規律せらる。この協約の結果更に賃銀は上昇を見たり、即ち次の次し。（地下勞働者賃銀表）

	戰前	一九一八年末	一九一九年新製度
	志片　志片	志　片	志　片
採鑛夫	六、〇—六、六	一二　一一	一四　六
一般勞働者	三、六—五、六	九　二	一〇　八
小兒勞働者	一、九—四、六	五　八	七　〇
運搬夫	四、〇—六、九	一二　一一	一四　六

從てヘマタイト採掘費は三〇志を超えたるへし。

(3) 最後に外國鐵鑛につきては其價格の騰貴著しく其大宗たる西班牙ビルバオのルビオ鑛（標準品位五〇%）のミッドルスブロー渡市價次の如くなれり。(I. & C. Tr. Rev. Jan. etc.)

年	最高		最低		平均海上運賃	
	志	片	志	片	志	片
一九一一	三二	六	一九	三	五	〇
一九一二	二三		二一	七、五	六	二
一九一三	二二	九	一九		五	三
一九一四	二三	六	一七		四	一〇
一九一五（平均）	政府管理		二九	三、二	二一	六
一九一六—一九年四月	五二志	—	四五志		—	
一九一九　五月					二四	〇
一九二〇年初	六三志				三三	〇

（ロ）骸炭代

坑夫罷業が製鐵業に及ぼせる障害は極めて重大にして殆と其根幹を動かすものあり。然り而して其の直接影響として最も憂ふへきは能率低下に伴ふ出炭減退其一なり、賃銀上昇に伴ふ生產費增加其二なり、其一に關しては別篇に之を說くへし、次に其二を述へん。

炭價調節が英國產業界の重大問題となりたるより石炭採掘費に關する推算は各方面より屢〻提出せられたり、然れ共各其立脚點の異なるに從ひ常に多少の異論あり、只た大戰以來數回の賃銀値上によりて著しく不廉となりたるは想像し易く炭坑夫聯合會側の推算（Frank Hodges 氏）によれは一九一九年度炭坑渡、噸當平均生產費二六志〇、五片にして其內譯左の如し。

噸當賃銀	一九志	七片
其他諸經費	四	一一、〇
利益及管理人報酬	一	六、五
計	二六	〇、五

此の見積りは各方面の論難を被りたるか資本家側の推算は固より之より高く最低平均生產費を

二七志八片とせり。(Thornycrot 炭坑主協會)、然るに南ウエールス炭坑主協會の Gibson 氏は假令全然利益を除外するも尚ほ二八志六片を下らざるへしと公言せり。未た政府の發表せる見積に依れは一九二〇年七月十六日以後一年間の全國平均噸當生産費二九志三片なり。

(註) 當該年度出炭量見積約二一七百噸とし噸當一志三、五片の利益を含有す。

然るに實際は更に不廉なりき、即ち次表の如し。

	全英國平均 一九二〇年九月末日に終る三ヶ月分	同上 一九二〇年六月末日に終る三ヶ月分	同上 一九二〇年三月末日に終る三ヶ月分
出炭量			
一、總出炭量	五九、二二二、〇〇〇噸	五八、一四四、〇〇〇噸	六二、〇五七、〇〇〇噸
二、山元使用控除したる量	＊五三、二五二、六四八	五二、二六〇、七三二	五五、六八〇、八七八
噸當生産費 △			
一、賃銀	二六志 三片、〇六	二五志 五片、七二	二二志 八片、五〇
二、貯藏品及材木	五 五、六四	五 二、六三	四 六、九九
三、其他	二 六、一五	二 四、七〇	一 七、七〇
四、鑛區稅	〇 七、六二	〇 七、六四	〇 七、五三
五、山元坑夫使用量より得し收入控除額	〇 一、七二	〇 一、七一	〇 一、七八
六、差引純生産費	三四 一〇、四七	三三 六、九八	二九 四、九四
內地販賣價格	三九 七、〇八	三六 七、三〇	三四 六、九一
差引利益	四 一〇、三三	三 〇、三二	五 一、九七

(Coal Mines Department)

(註) ＊販賣用炭量　△販賣用炭噸當價格　尚ほヂュラムのみにては純生産額三二志一〇片一七なり。(別表參照)

斯くの如く採炭費昂騰せしは全く賃銀上昇の結果にして然も同國勞働爭議の前途は尚ほ甚た憂ふへきものあるを以て當分炭價の著しき改善は豫想すへからす。

（註）Sir Hugh Bell氏は戰時中の賃銀增加に關して極めて有益なる說明をなしたり、即ち氏の調査によれは炭坑全從業員の年收次の如し。

一九一二年平均	七〇磅	一九志	三片
一九一三	八七	七	一一
一九一四	八二	一九	二
一九一五	九二	一五	一
一九一六	一一〇	一〇	四
一九一七	一三〇	一九	〇
一九一八	一五七	九	五
一九一九	一八四	〇	六
一九二〇	二一九	一三	〇

（註）Dec. 10. 1920. Colliery Gnardian.

採炭費の七五%は即ち賃銀なりと云ふを以て如何に生產費の昂騰せるかを察すへきなり。

參考の爲め數年來の噸當賃銀額を對比せは次の如し。（Thornycrot氏）

一九一四年九月	六志	三片
一九一八年九月	一四	四
一九一九年九月	二一	〇
一九二〇年三月末	二二	八、五
同　六月末	二五	五、七二
同　九月末	二六	三、〇六

假に石炭一噸原價三〇志とし骸炭製造步留六五%製造費一〇志とすれは骸炭製造原價五六志を下らす、之に高爐迄の運賃三志乃至八志を加算すれは

クリーブランド工場コークス一噸原價	約六〇志
カムバーランド　同　同	約六四志

なり。

一九二〇年十八月の三ヶ月間に於ける生産費及利益表(鑛山局調査) (Colliery Guardian, Dec. 17, 1920)

	ドーセット	ウェストモーランド	ヨーク	五、鑛部地帯及ケント州											一九二〇年十八月に終る鑛業年度の平均	同年十一月に終る鑛業年度の平均	同年十二月に終る鑛業年度の平均
				ウェールズ及モンマスシャー	ノーサンバランド及ダラム	ランカシャー及チェシャー	ヨークシャー	ミッドランド	ノッティンガム及ダービー	ケント	英国鑛部地帯合計	合計					
生産額																	
1、出炭高	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩
2、鑛業所の出炭高	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩
3、販賣高*	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩	千瓩
	一噸ニ就テノ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
生産費																	
4、賃銀	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
5、監督及事務費	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
6、其他經費†	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
7、鑛區稅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
8、合計生産費	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
9、損益勘定及收入‡	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
10、純生産費	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
收入																	
11、販賣價格	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
(イ)損益勘定收入	磅	—	—	—	磅	—	磅	—	磅	磅	—	—	—	—	—	—	—
(ロ)利益	—	磅	磅	磅	磅	—	磅	—	磅	—	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅
13、使役員人數	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
14、一人當出炭高	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
15、一人當收入額	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅	磅

* は販賣高及出炭高共に鑛業所に於ける出炭高を表はすもの。

† は鑛業權、鑛區稅、保險費、修繕費、其他雜費。

‡ 損益勘定及收入は特別に終末に掲げたる損益勘定及收入として鑛區稅及鑛業權を引去りたるもの。

§ 一九二〇年十月末に於ける平均賃銀は鑛業所としては一噸十四磅二分、工業用は四磅二分を超ふ。

‖ 本表に於ける數字の外に鑛區、鑛業權及鑛業所の利子、減價償却及鑛業權償却に關する數字は本調査に於ける利益計算に關係なきを以て除外せり。

¶ は一九二〇年三月末に於ける數字なるもの。

(三)バーケット氏の前掲論文中より左の材料を抽出して推算の參考とすへし、

一九一三年を標準としたる一九一九年の騰貴率表

	クリーブランド(一九一七年九月—一〇月) 騰	スコットランド(一九一九年一二月) 騰貴
一、ヘマタイト銑		
1 賣價	一八〇%	二四七、五%
2 燃料	一三八	二〇〇
3 外國鑛石	一七〇	二二五
4 賃銀	二七五	二六二
三、第三號鑄物用銑		
1 藥價	一六四	二一九
2 燃料	一三八	一七〇
3 國內礦石	一七三	二二三
4 賃銀	二九二	二六二
5 修繕料維持費其他	三三三	

又出銑噸當鐵鑛使用量は焙燒クリーブランド鑛にて約 $56^{Cwt}=2.8^{噸}$ 石灰石 $15^{Cwt}=0.75^{噸}$ なるへく次に出銑噸當骸炭使用量は鐵鑛種類によりて一樣ならす、次の如し。(W. A. Bone: Coal & S's. Scientife Nses. Ch. 19.)

	出銑噸當コークス使用量 Cwt.	(噸)
使用鐵鑛	二一、〇	(一、〇五)
赤鐵鑛	二三、五	一、一七
クリーブランド生鐵鑛	二二、五	一、一二
同焙燒鑛	二五、〇	一、二五
全ヽ國平均		

(四)余は以上の諸種材料を綜合して最近英國銑鐵生產費を推算すること次の如し。

	クリーブランド三號銑(內地鑛使用) 使用量(噸)	單價、志	志	カンバーランド、ヘマタイト(內地輸入鑛等分使用) 使用量(噸)	單價、志	志
一、鐵鑛石	二、八〇	一七	四七、六	二、〇〇	四二、五	八五、〇

二、骸炭	一、一五	六〇	六九、〇	一、〇五	六五、〇	六八、三
三、石灰石	〇、七五	一〇	七、五	〇、五〇	一、〇	五、〇
計			一二四、一			一五八、三
四、事務費工場費等			二五、九			二九、七
計			一五〇、〇			一八八、〇

是れ目下英國製鐵業の根本たる銑鐵生産費なり。之を平價にて本邦貨に換算して七五圓乃至九四圓とす。戰前二〇圓乃至二七圓たりしに比すれは著しき昂騰なり。

(五)戰後未曾有の高値を示したる原因は原料の缺乏及運輸の混亂を主とし同時に外國の競爭絶無なりしによる、然るに既に法外の高價は一般需要を減縮し獨、白、米よりの輸入は漸く回復せんとし同國市價は今や一大修正を經んとしつゝあり。而も一方炭價の昂騰せること上述の如く、內地鑛石の產額減退せること又著しきを以て當業者は悲觀材料に苦しみつゝあり。最後に注目すへきはクリーブランド地方の生產者の價格政策にして即ち相互に協定し務めて昂騰を避け、市價の安定を計りたること之なり。之を以て同地方の鐵價は他に比し二磅乃至二磅一〇志方低廉なるを得たりき。抑も戰前に於ては多量の銑鐵を常設倉庫に滯積し、之に對して證券を發行して轉賣を行はしめたり。かくて證券の價格變動は常にクリーブランド銑鐵市價を左右したり。然るに戰後は在庫銑鐵殆と減滅し從て證券も亦消滅したるを以て生產費をして價格決定の要因とするを得るに到れり、生產者は戰時中の管理によりて市價恒定の有利なるを自覺し、需給均衡を失して價格上昇の機會あるに際しても止むを得さる生產費の增加あるに非されは濫りに暴利を貪ることなかりき。

(註) 戰時中の製鐵會社成績表はバーケット氏上掲論文(J. of Royal Statistical Society. may. 1920)にあり。

(本誌大正九年十一月、十二月號參照)

(未完)